

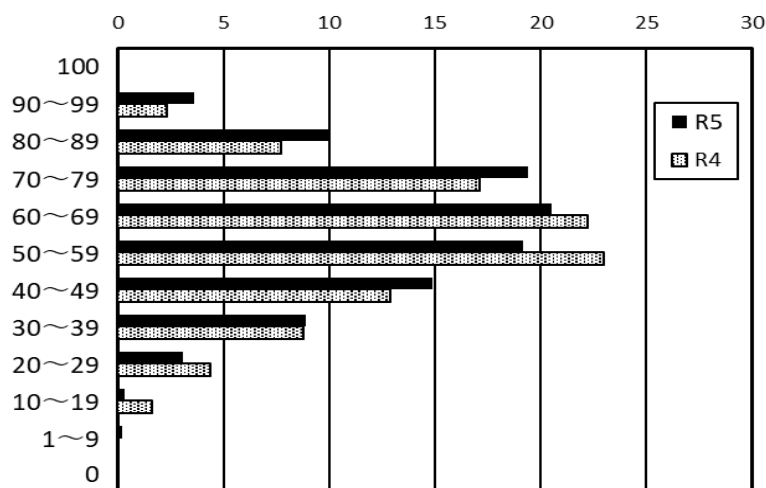
社 会

1 得点分布及び大問ごとの正答率

〈表1〉得点分布

得点	割合 %	R5 %	R4 %
100	0.0	0.0	0.0
90～99	3.6	2.3	2.3
80～89	10.0	7.7	7.7
70～79	19.4	17.1	17.1
60～69	20.5	22.2	22.2
50～59	19.2	23.0	23.0
40～49	14.9	12.9	12.9
30～39	8.9	8.8	8.8
20～29	3.1	4.4	4.4
10～19	0.3	1.6	1.6
1～9	0.2	0.0	0.0
0	0.0	0.0	0.0

〈グラフ〉得点分布



*合格者の中から、無作為に抽出した619人(20.0%)の結果である。

〈表2〉大問別の正答率の経年比較

大問	主な内容	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
①	地理的分野	69.9	70.2	60.4	58.7	69.3
②	歴史的分野	54.7	44.2	47.4	51.9	57.0
③	公民的分野	56.2	54.8	54.1	66.4	53.0
④	分野融合	48.3	50.0	57.5	54.6	63.7

2 分析結果の概要

合格者の社会の平均点^(※)は、62.0点で、昨年度と比べ上昇した(昨年度59.5点)。

(※)平均点は全日制すべての合格者3,094人のものである。

〈表1〉に関して、60点台の人数が全体の20.5%で最も多い(昨年度は、50点台で23.0%)。70点以上の人数は全体の33.0%で昨年度に比べ増加した(昨年度27.1%)。40点未満の人数は全体の12.5%で昨年度に比べ減少した(昨年度14.8%)。

〈表2〉について、分野別の正答率は①地理的分野の問題が最も高かった。昨年度との比較では、②歴史的分野が低くなり、①地理的分野と③公民的分野と④分野融合は高くなった。

「3 小問ごとの学年・領域、出題内容・ねらい、正答率」について、正答率80%以上の問題数は3問で、昨年度に比べ減少した(昨年度6問)。思考するための前段階として資料を読み取り判断する問題や、仮説を立てるために根拠として用いる資料を判断する問題の正答率が高かった(①の2(3)①、2(4)A、④の4)。正答率40%未満の問題数は5問で、昨年度に比べ増加した(昨年度4問)。特に、歴史的分野の、資料から時代の流れを判断する問題の正答率が低かった(②の2(2))。また、公民的分野の、基本的な知識・理解を問う問題の正答率が低かった(③の1(2)①、2(2))。

3 小問ごとの学年・領域、出題内容・ねらい、正答率

大問	小問	学年・領域	出題内容・ねらい	正答率 (%)											
				0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	
1	1	地理的分野	(1) 本初子午線と世界の州について理解している。	57.7											
			(2) イスラム教の特徴について理解している。	61.6											
			(3) バングラデシュにおける米の生産と地形・気候の関係について資料をもとに考察し、説明することができる。	70.4											
			(4) ベトナムの工業化の要因と影響について、複数の資料を関連づけて考察し、判断することができる。	①70.8 ②53.6											
	2		(1) 日本の島々の名称について理解している。	53.2											
			(2) 都市と地方の人口構成の変化について理解しており、判断することができる。	62.8											
			(3) 資料から日本の貨物輸送の特徴を読み取り、適切な内容を判断することができる。	①94.7 ②76.9											
			(4) 高速道路の開通による効果について、資料をもとに考察し、説明することができる。	A95.2 B66.0											
2	1	歴史的分野	(1) 鎌倉時代の乱について理解している。	63.2											
			(2) 平安時代の文化について理解している。	71.5											
			(3) 提示された資料の内容を理解し、時代の流れを判断することができる。	A56.9 イ44.4 ウ59.6											
			(4) 琉球の歴史について、資料をもとに考察し、適切な内容を判断することができる。	66.2											
	2		(1) フランス人権宣言について理解している。	65.6											
			(2) 平和に関する近代・現代の歴史の流れを判断することができる。	28.9											
			(3) 大正時代の文化について理解している。	49.9											
			(4) 戦後日本の国民生活の変化について、資料を関連づけて考察し、説明することができる。	59.1											
(5) 明治期の学校制度と人々の生活について、資料をもとに考察し、適切な内容を判断することができる。	①54.8 ②69.6														
3	1	公民的分野	(1) 三審制について理解している。	70.4											
			(2) 国会の種類について理解している。	①29.4 ②37.9											
			(3) アメリカの大統領制と比較した日本の政治のしくみについて、適切な内容を判断することができる。	52.3											
			(4) 男女共同参画社会について、資料をもとに考察し、適切な内容を判断することができる。	77.9											
	2		(1) 経済における希少性の考え方について理解している。	61.9											
			(2) 通貨と日本銀行について理解している。	17.8											
			(3) 若者の消費者トラブルについて、資料をもとに考察し、説明することができる。	36.6											
			(4) 地球温暖化に対する国際的なルールの決め方について、効率と公正という観点に着目しながら資料をもとに考察し、適切な内容を判断することができる。	67.5											
4	1	分野融合	日英同盟と日露戦争について理解している。	52.3											
	2		デジタル地図の特徴について、資料をもとに考察し、説明することができる。	55.7											
	3		地方財政について、資料をもとに考察し、適切な内容を判断することができる。	53.2											
	4		県立図書館による市町村立図書館の支援について、資料をもとに考察し、適切な内容を判断することができる。	80.9											